

環境情報学研究科 環境情報学専攻 博士後期課程を修了した関口幸治さんが国際P2M学会 研究賞を受賞

環境情報学研究科 環境情報学専攻 博士後期課程を2022年9月に修了された関口幸治氏（岡田〔公〕研究室）が、2024年4月20日に千葉工業大学にて開催された国際P2M学会2024年度年次総会にて「研究賞」を受賞しました。博士後期課程にて研究した学位論文「ビジネスエコシステムを考慮したビジネスモデル変革方法論／プロセスの研究」に関連して、国際P2M学会誌に4報の査読付き学術論文を掲載しており、その一連の内容が評価されたものです。国際P2M学会にて「研究賞」が制度化されて以降、初めての受賞対象となりました。



写真：関口氏（右）と国際P2M学会会長（左）



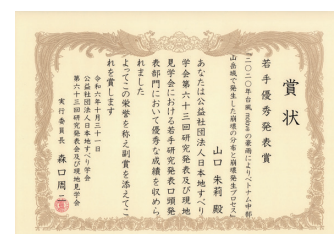
写真：表彰状と記念品として贈呈された「イニシャル刻印レザータグ」

環境経営システム学科4年の山口朱莉さんが（公社）日本地すべり学会研究発表会の「若手優秀発表賞」を受賞

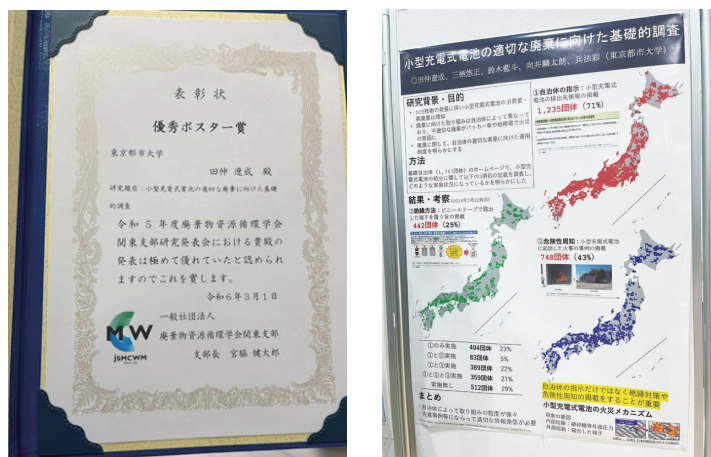
9月17日から20日にかけて公益社団法人日本地すべり学会研究発表会が宮城県仙台市の仙台国際センターをメイン会場として開催されました。その後、若手優秀発表賞の審査委員会による審査が行われ、環境経営システム学科の山口朱莉さん（佐藤剛研究室・4年）の発表「2020年台風Molaveの豪雨によりベトナム中部山岳域で発生した崩壊の分布と崩壊発生プロセス」が同賞に選ばれました。本研究は、衛星画像判読を基にクアンナム省南西部を対象に台風の豪雨を誘引として発生した斜面崩壊（地すべりの一種）の詳細な分布図を作成し、斜面崩壊の分布とプロセスが地質によって異なることを明らかにしました。この研究成果は、斜面崩壊がどこで発生するのか予測するための重要な資料となります。山口さんは本学大学院環境情報学研究科に進学し、継続してベトナムの土砂災害研究に取り組みます。山口さんの研究がベトナムの防災に貢献することが期待されます。



山口さん（右から4人目）と研究室からの発表者



2024年3月1日に東京都市大学横浜キャンパスにて開催された廃棄物資源循環学会令和5年度関東支部主催研究発表会において、環境学部環境経営システム学科の田仲遼成さんら（当時2年）が、「小型充電式電池の適切な廃棄に向けた基礎的調査」というタイトルで研究発表を行い、正会員の投票によって決まる優秀ポスター賞を受賞しました。この研究では、不適切な取り扱いが発火事故等を引き起こしている小型充電式電池を対象に、基礎自治体における廃棄方法やその情報提示の現状を連名者である三栖悠正さん、鈴木藍斗さん、向井麟太郎さんと調査し、安心・安全な収集および再資源化に向けた今後の課題を明らかにしました。学生主体で調査した成果を対外的に発表することで、社会のニーズや新たな課題点とのつながりを認識する交流の場において、発表内容を高く評価していただけたことをうれしく思います。



進化計算コンペティション2024において情報システム学科大谷研究室のpenguinチームが単目的部門トップ賞を受賞

進化計算学会主催の進化計算コンペティション2024において、大谷研究室に所属する若月玲之さん（情報システム学科3年）、深代夏帆さん（情報システム学科3年）、岡村和哉さん（情報システム学科4年）、堤創一朗さん（環境情報学専攻2年）のチーム「penguin」に、単目的部門でトップ賞が授与されました。進化計算コンペティションは、進化計算の実応用と産学交流を促進するために、2017年に始まった最適化コンペティションです。これまでのコンペティションでは、製造業・航空宇宙・ゲーム・行政・交通などの分野における最適化問題が出題されました。第8回となる今回は、解くのが最もおもしろい「ナンバープレース」の作成が課題でした。単目的部門と多目的部門があり、各部門で評価の高い解を導出したチームにトップ賞、準トップ賞が授与されます。penguinチームは単目的部門において12チーム中1位のスコアでの受賞となりました。



日本下水道新聞で情報システム学科4年齋藤元気さんの研究成果が紹介されました

2024年12月18日付日本下水道新聞において、情報システム学科4年の齋藤元気さんの研究成果が紹介されました。齋藤さんは、多くの人が下水道に対して「汚い」、「臭い」というイメージを持っていることを問題視し、農業や水産業での再生水利用に対する安全性の理解と不安解消を目的として、反応タンクと最終沈殿池での処理、および再生水の活用効果をシミュレーションする「すわっじゲーム」を開発しました。「すわっじゲーム」は「スイカゲーム」をモチーフにしており、反応タンク内にいる微生物が徐々に大きな微生物に変化することで、捕食関係が表現されています。スコアが上がるにつれて背景の海や畑が豊かになり、ゲームをプレイしながら下水処理の効果を実感することができます。また、一番大きなミジンコが出現すると、「すわっじ！」というサウンドロゴが流れます。



「すわっじゲーム」は以下でお楽しみいただけます。
https://unityroom.com/games/sewage_game225 (パソコンでの使用のみ対応)



環境情報学研究科の長谷川琳太さんがヒューマンインタフェース学会において「第24回学術奨励賞」を受賞

2023年9月6～8日に開催されたヒューマンインタフェース学会主催「ヒューマンインタフェースシンポジウム 2023」において、環境情報学専攻博士後期課程の長谷川琳太さんが「白杖の利用データを活用した歩きづらさマップ生成システムの実装と評価」というタイトルで対話発表を行い、ヒューマンインタフェース学会第24回学術奨励賞（2024年度）を受賞しました。本賞は、本学会が主催するヒューマンインタフェースシンポジウムにおいて優れた内容の発表を行った若手研究者に贈られるものです。長谷川さんは、環境情報学専攻の市野順子教授の研究室に所属しており、視覚障害者支援システムについて研究を行っています。本研究発表では、視覚障がい者の白杖使用データを用いて、高齢者や車椅子歩行者を含む晴眼者のための歩きにくさマップを提示するシステムを提案しており、視覚障がい者を支援の「受け手」ではなく「担い手」と捉えた、ユニークかつ重要な研究と考えられます。

